

学校だより



平成30年11月30日

12月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長 井上 由美子

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

大切にしよう 人を思う心

校長 井上由美子

美しが丘公園のシンボルツリーがライトアップされました。学校からもよく見え、冬の訪れを実感します。登校してくる子どもたちの手には、手袋も見え始めました。朝の昇降口では、足を止め目を見て「おはよう」のあいさつをする子どもが多くなりました。寒くなってきましたが、元気な挨拶から始まる一日は、気持ちがよいです。

12月4日から10日は、人権週間です。「人権」は、だれもが、安心して、豊かに、自分が自分として生き生きと生活する上で不可欠なものです。「人権」がすべての人に保障されるためには、一人ひとりが自分をかけがえのない存在として思えるようになること、さらには他の人も同様にかげがえのない存在として尊重したいと実感できるようになることが必要です。

美しが丘東小学校では、「他者を理解する」学習をこの時期に計画的に行っています。低学年は歌をとおして手話を学んだり、中学年は視覚障害の方から見え方の違いを聞き点字やアイマスクをして歩く体験をしたり、高学年は車椅子を操作する体験や福祉車両について学んだりします。このような体験型学習で「他者を理解する心」「思いやりの心」が育まれます。



11月の朝会で「想」は、相手を思う心で、人との関わりの中でとても大切だという話をしました。さらに、「そろえる」という言葉を付け加え、心をそろえてできることを実践してほしいと投げかけました。その後、クラスによっては授業の始まりや終わりの挨拶をそろえると“けじめがつき落ち着いて行動できる”、教室の机をきれいにそろえると“気持ちがよい”、靴箱の靴をそろえて入れると“他の人のそろっていない靴を直してあげられた”などの声を聞くことができました。

横浜の小、中、高校で取り組んでいる「横浜子ども会議」のテーマは「だれにとっても居心地のよい学校づくり」です。話し合いに参加した6年生から、みんなが思いやりをもって仲良していくには、あいさつが大事という報告がありました。「だれにとっても居心地のよい学校」であるために、人と人をつなぐあいさつや「ことば」について振り返ってみることが必要だと思います。「ことば」は、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを理解したりするために大切なものなのに、『ちくちくことば』を耳にすることがありました。『あったかことば』をかけられると、ほっとした気持ちになります。人権週間をきっかけに、『あったかことば』がたくさん使われるようになるとよいと思います。

日々の学校生活の中でがんばったことを認めたりほめたりして自己肯定感や自尊感情を育てるとともに、他の人と関わりながら相手のことも考えた行動がとれる人権意識も高められるよう全教職員で取り組んでまいります。

今後ともご理解とご協力をお願いいたします。